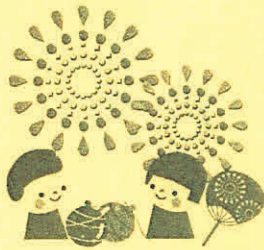


# 小島地区ふれあいセンターだより



令和6年8月 第410号 運営委員会発行

愛宕3丁目10-2 電話826-7703



8月の行事予定

※毎週月曜日は休所日です。

開催日	行事名	
2日(金)	子育て教室	午前10時～11時30分
6日(火)	小島地区ふれあいセンター運営委員会	午前10時～11時
7日(水)	すこやか運動教室(生涯元気事業)	午前10時～12時
10日(土)	小島愛宕地区老人連合会定例会議	午前10時～11時
21日(水)	すこやか運動教室(生涯元気事業)	午前10時～12時
24日(土)	小島地区民生委員児童委員協議会定例会	午前10時30分～12時

## 小島地区「子育て教室」の七夕飾りづくり

7月5日(金)に、長崎市子育てサポート課、小島地区民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会小島支部・上小島支部・愛宕支部の主催による小島地区「子育て教室」が開催されました。

この日の取り組みは、「七夕飾りを作ろう」でした。

子供達は、お母さんに手伝ってもらい、七夕の笹飾りの短冊に「家族みんなが、明るく元気に、笑顔で過ごせますように」「みんな元気で、たくさんご飯を食べて過ごせますように」「おあそび教室で、たくさんお友達ができますように」などの願い事を書いて飾り、楽しいひと時を過ごしました。

出来上がった七夕飾りは「小島地区ふれあいセンター」1階ロビーに飾りました。



出島④

②「禁制」には次の通り書かれていた。

- ・一、傾城之外女入事
- ・一、高野ひじり之外出家山伏入事
- ・一、諸勅進之者並之乞食入事
- ・一、出島廻り傍示木杭之内船乗り廻ル事
- ・一、断ナクシテ阿蘭陀人出島ヨリ外江出ル事
- ・右ノ条々堅可相守モノ也 ・卯 十月

※遊女以外の女、高野聖のほかの山伏や僧侶、勅進や乞食の出入り禁止。出島の外周に打つてある棒杭の中、橋の下への船の乗り入れ禁止。オランダ人は許可なく出島から外出禁止。

○表門橋

・今の表門橋は平成29年(2017)11月24日に開通記念式典が開催され、翌日11月25日に供用開始されました。長さ38.5m水面長約30m、幅4.4mの鉄製、塗中に旧表門橋の位置プレートが取り付けられています。(長さ約4.5m)

○ケンベル・ツコンベリ記念碑(県指定史跡 昭和35年7月13日)

・商館医シールボルトは、先人の偉業を顕彰のため、文政9年(1826)に記念碑を建てました。

・この記念碑は長崎県立図書館入口に、一時設置されていました。

※出島の三学者

- ・ケンベル(ドイツ人)元禄3年(1690)医師として来崎。医学・植物学者。2年間滞在。帰国後「日本史」を著した。英語訳、ラテン語訳、蘭語訳、仏語訳、最後に独語訳で刊行。
- ・ツコンベリ(スエーデン人)安永4年(1785)医師として来崎。植物学研究を志しVOCに入社。1年間滞在。「日本植物図譜」等を著した。
- ・シールボルト(ドイツ人)文政6年(1823)医師として来崎。日本研究を志しVOC入社。大著「日本」は不屈の名著。文政11年(1828)シールボルト事件により追放。3年間滞在。

次は出島⑤



表門橋

流刑地としての五島(三)

流罪人が配所で重ねて犯を犯した場合には、島管理奉行(伊豆七島は浦賀奉行、五島は長崎奉行)の指示にて、その島で死罪。島抜けは死罪。不法を働いた者は、程度によって入牢、又は島替えと規定している。

これらの規定も一応の基準を示したものであり、執行に当たっては、執行者の裁量に依った。前にも触れたが、流刑は江戸期になると、完全に庶民の刑罰へと変わっていった。

刑罰には、赦免というものが伴うが、江戸期における赦免としては、將軍家御宣下祝、將軍家御位階御昇進の御祝儀、將軍家日光御參詣相済の御祝儀、將軍家御法事の時、いわゆる「幕府の御仁恵」による恩赦があった。

五島への流刑は、王朝時代からもあったが、江戸期においては、慶安元年(一六四八)初めて長崎奉行所より流罪の者を送致とあるので(五島編年史)、この年より長崎から五島に流刑者を送ることが始まったといえる。

五島へは長崎のみならず、大阪、江戸からも多くの罪人が配流されている。

元禄五年(一六九二)高野山行人方の僧侶百二十五人が五島に流されているが、居ること九年、この流人への費用は一カ年千四百三十三両二匁、銀三匁で藩としても大きな支出であった。

出島⑤

○バトミントン伝来の地。インドネシアが発祥、出島に来ていた使用人が遊びで楽しんでいました。蘭館絵巻にバトミントンで遊ぶ絵が残っています。

○キャピタン橋。文献により昭和40年に復元したもの。小さな石橋です。

○シールボルト里帰り植物。(日蘭交流400年)シールボルトは260種の植物をオランダに送っています。そのうち、13種が現在もライデン大学付属植物園で生育され、その中から5種の植物を里帰りさせ植えられています。

○ミニ出島

・昭和51年(1976)に製作された1/15の模型。1920年代の出島を川原慶賀が描いた「長崎出島之図」を参考に作られています。この模型は出島が湾岸工事の為、18m削り取られる以前の姿で作られており、まだ復元されていない建物もあり、本来の姿を体感できます。なお、建物部分の補修は、長崎工業高校生徒の奉仕活動で順次新しく作り変えられています。

・北側の川沿いの堀は、全て明治時代の築造です。高さが1m少々で表から中が丸見えとなっていますが、本来の堀は外との目隠し役を兼ね、約3mの高さで囲われていました。

●明治時代のエリア

○旧出島神学校。わが国最初のキリスト教(プロテスタント)の神学校として、明治10年(1877)に建てられました。プロテスタント教会建築として、現存する日本最古の建物です。明治19年(1886)閉鎖された後は、宣教師宿舎として使用されました。鐘塔の鐘は、「東京銀座教会」の鐘として贈られています。

○旧長崎内外俱樂部。明治32年(1899)倉場富三郎(T. B. グラバー)の息子や庄田平五郎等を発起人として、長崎に暮らす外国人と日本人の交流の場として設立されました。現在の建物は、明治36年(1903)英国人F. リンガーにより建てられた英国式の洋風建築です。

○陶製の門。昭和29年(1954)に移築。柱にベトウルス・レグウー窯のマークが刻まれた同社の製品であり、当時、出島にあった店舗に使われたと推測されています。

次は出島⑥

流刑地としての五島(四)

長崎からの流人は、五島、杵岐、天草、平戸、薩摩などが見られ、時により杵岐に集中したりしているが、相対的に見て長崎からの流人は五島が主であった。

ここでは、五島への長崎流人ということで見ていこう。

各地からの流人は、まず、戸楽に入港し、町会所にて受取り、その後三尾野役所にて、それぞれの配所を定め送致した。

長崎には長崎奉行所の記録『犯科帳』なるものが残っているが、五島への長崎流人としては寛文八年(一六六八)七月十八日、長崎本博多町乙名 伊藤久兵衛が密通により五島へ流人となったとあるが、『五島編年史』には載っていない。

『五島編年史』に出てくるのは明暦三年(一六五七)長崎流人 掘島伊左衛門で三井楽に送致されている。

先に慶安元年より長崎よりの五島流刑が決定されているが、資料から判断すると、実質的には明暦三年からと考えていだろう。

『犯科帳』は、寛文六年(一六六六)から慶応三年(一六八七)までの長崎奉行の判決記録であるが、その間に百数十名の流刑者が挙げられるが、ただ遠島とのみしか記載していないのもあるので五島への流刑者を何人とは断定できない。



〈新着図書のご案内〉

	書 籍 名	著 者 名	出 版 社
一 般 図 書	姫四郎流れ旅 2	笹沢 左保	コスミック出版
	とっぴんぱらりの風太郎 上	万城目 学	文藝春秋
	とっぴんぱらりの風太郎 下	万城目 学	文藝春秋
	高名の坂	幡 大介	双葉社
	鷹の小判に流れ星	幡 大介	双葉社
	天下無双の型破り	幡 大介	双葉社
	影武者八巻卯之吉	幡 大介	双葉社
	昏き道行き	幡 大介	双葉社
	怪盗世直し衆	幡 大介	双葉社
	関東に化け物現る	幡 大介	双葉社
	最後は住みたい町に暮らす	井形 慶子	集英社
	室町ワンダーランド	清水 克行	文藝春秋
	ヒトコワ都市伝説	ナオキマン	彩図社
	血糖値・血圧・コレステロールを下げる名医	—	宝島社
	手編み大好き！	成美堂出版編集部	成美堂出版
	岡っ引黒駒吉蔵	藤原 緋沙子	文藝春秋
	クスノキの女神	東野 圭吾	実業之日本社
	悪魔には悪魔を	大沢 在昌	講談社
	心の病になった人とその家族が最初に読む本	広岡 清伸	アスコム
力道山未亡人	細田 昌志	小学館	
白鳥とコウモリ 上	東野 圭吾	幻冬舎	
白鳥とコウモリ 下	東野 圭吾	幻冬舎	
年をとったおかげです	中山 康子	さくら舎	
まるわかり新 NISA 講座	塚本 俊太郎	扶桑社	
児 童 図 書	こらしめじぞう 2	村上 しいこ	静山社
	こころころころ	新井 洋行	岩崎書店
	小学生のうちから知っておきたい著作権の基本	宮武 久佳	カンゼン
	リリの思い出せないものがたり	たかどの ほうこ	ポプラ社
	ときの鐘	小林 豊	ポプラ社
魔女がやってきた！	マーガレット・マーヒー	徳間書店	